平成 25 年２月 14 日

各　位

会 社 名　　ガイアホールディングス株式会社
代表者名　　代表取締役　　郡 山　龍
（コード：3727、東証マザーズ）
問合せ先　　常務取締役　　伊 藤　洋
（TEL. 050-3786-1715）

個別業績の前期実績との差異及び営業外費用の計上に関するお知らせ

平成24年12月期（平成24年１月１日～平成24年12月31日）の個別業績につきまして、前期（平成23年１月１日～平成23年12年31日）の個別実績と比較して差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。また、以下の営業外費用を計上いたしますので、併せてお知らせいたします。

記

１．平成 24 年 12 月期個別業績と前期実績との差異（平成 24 年１月１日～平成 24 年 12 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり当期純利益
前期実績（A）（平成 23 年 12 月期）	百万円 3,987	百万円 491	百万円 465	百万円 54	円 銭 5.30
当期実績（B）（平成 24 年 12 月期）	2,295	△1,835	△2,197	△3,114	△248.18
増減額（B）－（A）	△1,692	△2,326	△2,662	△3,168	－
増減率（%）	△42.4	－	－	－	－

２．差異発生の理由

前期と比較して技術支援売上は増加したものの、製品売上の減少を補うまでには至らず、売上高及び営業利益に差異が発生しております。

製品売上のうちフィーチャーフォン向け製品の売上高の減少は想定しておりましたが、平成 24 年 11 月９日に公表いたしました「平成 24 年 12 月期通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」の通り、コンテンツ・サービス等事業の業績不振がソフトウェア基盤技術事業側の売上高及び営業利益にも影響を与えた形となりました。更に、当第４四半期会計期間に計画していた大規模なロイヤリティ売上の契約締結が次期にずれ込んだことや、同じく当第４四半期会計期間中に一定額の売上計上を見込んでいた技術支援案件の期間が延長されたこと等も前期と比較して売上高及び営業利益の差異を広げた要因となっております。

これに加え、コンテンツ・サービス等事業セグメントの子会社への貸付金について後述の貸倒引当金繰入額を計上したこと、及び当該子会社株式について関係会社株式評価損を計上したこと等により、経常利益及び当期純利益が減少しております。関係会社株式評価損につきましては、平成 24 年 11 月９日公表の「平成 24 年 12 月期通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照下さい。

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。
よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

３．営業外費用の計上

（１）貸倒引当金繰入額（個別）

当社子会社である株式会社アニメインターナショナルカンパニーの経営環境、平成 24 年 12 月期の業績及び今後の業績見通し等に鑑み、同社への貸付金の回収可能性を見直した結果、当該貸付金について 425 百万円の貸倒引当金繰入額を計上いたしました。なお、当該貸倒引当金繰入額につきましては、連結決算上相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

以 上

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。
よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。